

「熱い心」 ～日本一熱く、絆強き学校への道～



楽しく真剣にやる掃除！～夢の国のカストーディアル！～

「夢の国」と呼ばれるディズニーランドでは、およそ1万8千人もの人たちが働いています。その中で最も多くの人々が割り当てられているのが掃除担当。「カストーディアル」と呼ばれます。ディズニーランドを作ったウォルト・ディズニーは、「来てくださった人すべてに夢と感動をプレゼントすること」を願って作りました。そのために、「本物を目指すこと」「美しく清潔であること」「働く人が生き生きしていること」という3つのことを大事にしたそうです。なので「カストーディアル」は、染み1つない清潔でかっこいい制服を着て、「自分たちが東京ディズニーランドの主演である」と誇りを持って常に笑顔で仕事に取り組んでいるのです。夢の国は常に美しくなければならぬのだから、掃除は単なる掃除ではなく、夢の国のドラマを作る大事な役割であるという気持ちでやっているのです。また、お客さんが帰った後にも、ナイトカストーディアルと呼ばれる人たちが園内の掃除を行っています。夜の広い園内の掃除は寂しくてきついものですが、中にはトイレの便器一つ一つに名前をつけて、愛情を持ってトイレ掃除を行う人もいたそうです。それくらい一生懸命に掃除をしているのです。そんなディズニーランドには、掃除の目標として「これくらいきれいにしよう」というものがあります。それは、「朝一番、赤ちゃんのゲストが来て、どこをハイハイしてもいいレベル」だそうです。掃除さえも人を幸せにするために、楽しく真剣にやる。そのことが驚異的なリピート率を生んで、今なお大人気のテーマパークとして存在しているのでしょうか。ウォルト・ディズニーはこう言いました、「いつもきれいにしておけばお客は汚さない。でも、汚くなるまで放っておけばお客はますますゴミを捨てるんだ」と。まさに「掃除は汚れているからするのではなく、汚さないためにするのだ」ということですね。今、我々が生活しているこの学校は、教室は、トイレや玄関は、みんなが気持ちよく生活できるように常に保たれているのでしょうか。一中が大切にこだわってきたことの1つに、トイレや教室など人が立ち去った後、「そこにその場所の本当の姿があらわれる」という価値観があります。ぜひこの価値観で残り三週間を過ごしてみましょ。きっと多くの気づきが生まれ、やるべきことや頑張りたいことが生まれ、二学期ゴールへの道筋が見えてくるでしょう。「この場所をきれいにすることで誰かが喜ぶ」、「これを整頓すると誰かが過ごしやすくなる」、「こんな言葉かけをすれば誰かが支えられる」…、そんな「誰かのために」を大切なキーワードにして！



良い習慣は才能を超える！～「割れ窓理論」から考える～

これまで何度か紹介してきた「割れ窓理論」。「窓ガラスの割られたクルマを街に一台放置しておくと、その近隣では急激に犯罪が増える」、「汚している場所には人は平気でゴミを捨てるけど、きれいにしている場所には簡単にごみを捨てない」という理論。ディズニーランドの成功の裏にもこの割れ窓理論があるといわれています。これはみんなの生活習慣にも当てはまり、小さな習慣の乱れがやがて大きな乱れにつながる。ルーズにやり過ごしていることをそのまま放置していれば、だんだんと価値観やモラルが低下していき、それは必ず大きな乱れへとつながってしまいます。人は環境に大きく左右される生き物だから、やはり環境を整え、小さな習慣の乱れから正していくことが大切というわけです。良い習慣は才能を超える！まさにその通り。「一中命を守る三か条」や「一中人権宣言」、家庭学習習慣や授業規律、良い習慣として根付かせていく大切な12月。小さなほころびはすぐに修復していこう。

